

かつて評論家の亀井勝一郎さんは、『北海道の花はジャガイモ』と述べていました。7月ころ北海道を旅しますと、どこへ行ってもジャガイモの花絨毯が見られ、その言葉を実感します。今回はそのⅡです。

○ 花の色

ジャガイモの花には、白、紫、赤紫、青、これらの淡いものなどの外、「メークイン」のように紫の地に白い斑点が散在したり、花卉の先の白いものもあります。



「ジャガイモのことで伺いたい。旅のバスの中でカケをしたのですが、「紅丸」の花の色は紅ですか、白ですか」

時折、こんな楽しい電話質問も農業試験場に飛び込んで来ることもあります。「紅丸」（ベニマル）とは、北海道内でいちばん広く栽培されている品種。バスガ

イドさんの説明に「紅丸」の正しい読み方は「コウガン」なのだと、とんだ御進講をする者があった後の電話かも知れません。



『芋に着色のあるのは、花も赤か紫だろう』と思われることが多く、これはクイズの種になります。

しかし、芋の色は花のそれとは無関係で、「男爵薯」や「メークイン」では花が着色しています。花も芋も白なのは「農林1号」、「トヨシロ」などで、その例は少ない。

7月北海道内を回りますと、知床から網走にかけてとか、十勝などの道東では、でん粉

原料用の「紅丸」、ポテトチップスになる「トヨシロ」、用途の広い「農林1号」の栽培が多いため、白花がじゅうたんのように続くことが多い。

しかし、道南では「男爵薯」（淡赤紫）、「メークイン」（紫に白の斑点）の比率が高く、着色派が強くなります。



深谷忠記のアリバイ崩しの力作『「札幌・仙台」48秒の逆転』では、函館市北部の亀田中野町の山麓で地元石川町の中学1年生3人

組が女性の死体を発見した事になっていて、その時の風景描写は、

「このあたりは、道が舗装されていないうえ長い坂がつづくので、彼らも滅多に來ない。両側には夏になれば一面、白い花の咲くジャガ芋畑になるところで、振り返ると、函館山が一望に収められた」



となっていました。しかし、実際のこの辺はほとんど赤紫の「男爵薯」が長くつくられ、開村以来ただの1度も白い花が一面に咲くようなことがなかった場所なのです。

「メークイン」の花は、花柄が長く、花卉はヘリオトロープ（紫）色で、大きい。しかも白のしぼりがあって、その先が白いので他と区別しやすい。

「ワセシロ（伯爵）」では、花の数が少ない上に、花柄が短いので、派手ではなく写真の題材になりにくい。

ジャガイモ の 花の鑑賞(Ⅱ) 花 の 色

ホクレン米麦農産推進部

浅 間 和 夫